

表6. 平成30年度卒業論文評価

	①基礎	①想起する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する	⑦応用
学生A	3	3	3	3	3	3	2	
学生B	3	3	3	3	3	3	2	
学生C	2	3	3	3	2	2	2	
学生D	2	3	3	3	2	2	2	
学生E	2	2	2	2	2	2	2	

評価-1：規準に足りていない，2：規準到達
3：規準を越えている

そこで、今年度は評価時期を早め、前期の卒業研究への取り組みへの評価、卒業研究中間発表における評価を加えることとした。前期の取り組みを事例的に5名の学生を抽出し、評価した結果が表7である。評価項目は昨年度と同様である。しかしながら、卒業研究取り組み途中の評価であるため、認知過程次元の3段階目までの評価にしか至っていない。

表7. 令和元年度卒業論文（中間）評価

	①基礎	①想起する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する	⑦応用
学生F	2	2	2					
学生G	2	2	2					
学生H	2	2	2					
学生I	2	2	2					
学生J	3	2	2					

評価-1：規準に足りていない，2：規準到達
3：規準を越えている

今回のような評価の規準があることを学生にも伝え、評価を定期的実施し、学生へのフィードバックをすることで、学生の力の向上に繋げることを実施した。

6. おわりに

これまで報告したように、本実践はディプ

ロマ・ポリシー改善を念頭に、学びの集大成の卒業研究の評価の実践である。そこから分かってきたことは、大きく2つである。一つは、卒業研究の評価方法、もう一つは、ディプロマ・ポリシーの改善の必要性である。

評価方法は、教育評価としてブルームのタキソノミーを基にすること、その上で、現在の評価規準のルーブリックを作成する、作成したルーブリックは、学生に伝える、評価結果を学生にフィードバックする、の3つが有用であると示唆されたことである。

ディプロマ・ポリシーの改善の必要性については、評価を実際に行ったところ、学部の中でも専門性が細分化される場合が多いと改めて感じる事となった。そのため、学科・専攻独自のディプロマ・ポリシーも必要になってくると考えられる。

今後は、今年度の卒業研究の評価を、卒業研究中間発表の際に実施し、学生にフィードバックし、この評価規準において、学生自身が卒業研究への意欲をより換気したり、学生自身の力の確認をしたりすることに役立つかどうか、調査をし、この評価規準でよいのか評価するとともに、ディプロマ・ポリシーの検討を行っていきたいと考えている。

謝辞

本研究遂行にあたり、本学の先生方に多くのご指導をたまわりました。ここに感謝の意を表します。

主な引用・参考文献

- 1) 梶田叡一(1983)教育評価. 有斐閣. p.112
- 2) 梶田叡一(2010)教育評価(第2版補訂版). 有斐閣
- 3) 国立教育政策研究所(2013)社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則

【特集】

ポートフォリオなどを活用した授業実践とポリシーの改善
Class Practice and Policy Improvement Using Portfolio etc.

生田 孝至*1 服部 晃*2 富士 霸王*3

和文抄録：教育研究資料アーカイブの開発と活用により、学生の学びの質と教員の教育の質を向上させ、成果や課題を可視化して、三つのポリシーやカリキュラムなどの評価、改善を図っている。総合的な評価から、ディプロマ・ポリシーとアドミッション・ポリシーの継続が望ましいことが明らかになった。また、学修ポートフォリオを効果的に活用して学修意欲を高めたり、学びを深めたりする教育を継続、発展させる必要があるため、カリキュラム・ポリシーの検討が必要であることが明らかになった。

<キーワード>三つのポリシー、ティーチングポートフォリオ、学修ポートフォリオ、メタデータ、授業改善

1. はじめに

岐阜女子大学では、建学の精神「人らしく、女らしく、あなたらしく、あなたならではの」の基に教育目標「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」を掲げている。この教育理念に基づいて三つのポリシーを一貫性あるものとして策定している。

教育理念の実現のため2009年より「学びの内容」の質的向上を求めて、学修内容と行動目標表を定めてシラバスを構成するとともに、教育研究資料の整備と保管を行ってきた。平成21年文部科学省学生支援推進プログラム「社会のニーズに対応した学士力と高い就職率・定着率を目指す」にも採択された。以降、三つのポリシー、コア・カリキュラム、学習内容・行動目標、入学前課題、基礎の学び、専門教育、資格取得などの取り組み、テキストや資料の整備などを全学で進めてきた。

2015年度から「学びの活動」の質的向上を求めて、教育研究資料の整備を進めた。教育研究資料のうち、授業科目資料、資格関連科目資料、学修資料などは、岐阜女子大学50周年記念事業の一環として公開され、学内での活用が始まった。本学は教育研究資料の整備をさらに進め、岐阜女子大学デジタルアー

カイブの開発を行ってきた。2017年度から卒業論文の記録、保管、学内での公開を始めた。

2018年度には一部の科目で学修ポートフォリオの活用を始めた。学修ポートフォリオの活用とともに、ティーチングポートフォリオの検討を進め、2019年度より一部の科目で実施している。学修ポートフォリオ、および、ティーチングポートフォリオは、実施方法などの改善を図りながら全学への拡充を進めている。さらに、本学は、従来、岐阜や沖縄など全国の地域文化資料の保管・公開を進めてきており、これに加えて、2018年度に地域連携研究資料の保管を始めて、学生、教員の活動を支える教育研究資料デジタルアーカイブの充実を図っている。

これらの教育研究資料アーカイブの開発と活用により、学生の学びの質を向上させ、教員の教育の質を向上させるとともに、成果や課題を可視化して、三つのポリシーやカリキュラムなどの評価、改善を図っているので報告する。

2. 評価項目

本学は全学的な教学マネジメントを構築して、学びの質を向上させ、エビデンスを基に

*1 IKUTA, Takasi *2 HATTORI, Akira *3 FUJI, Kakuo 岐阜女子大学

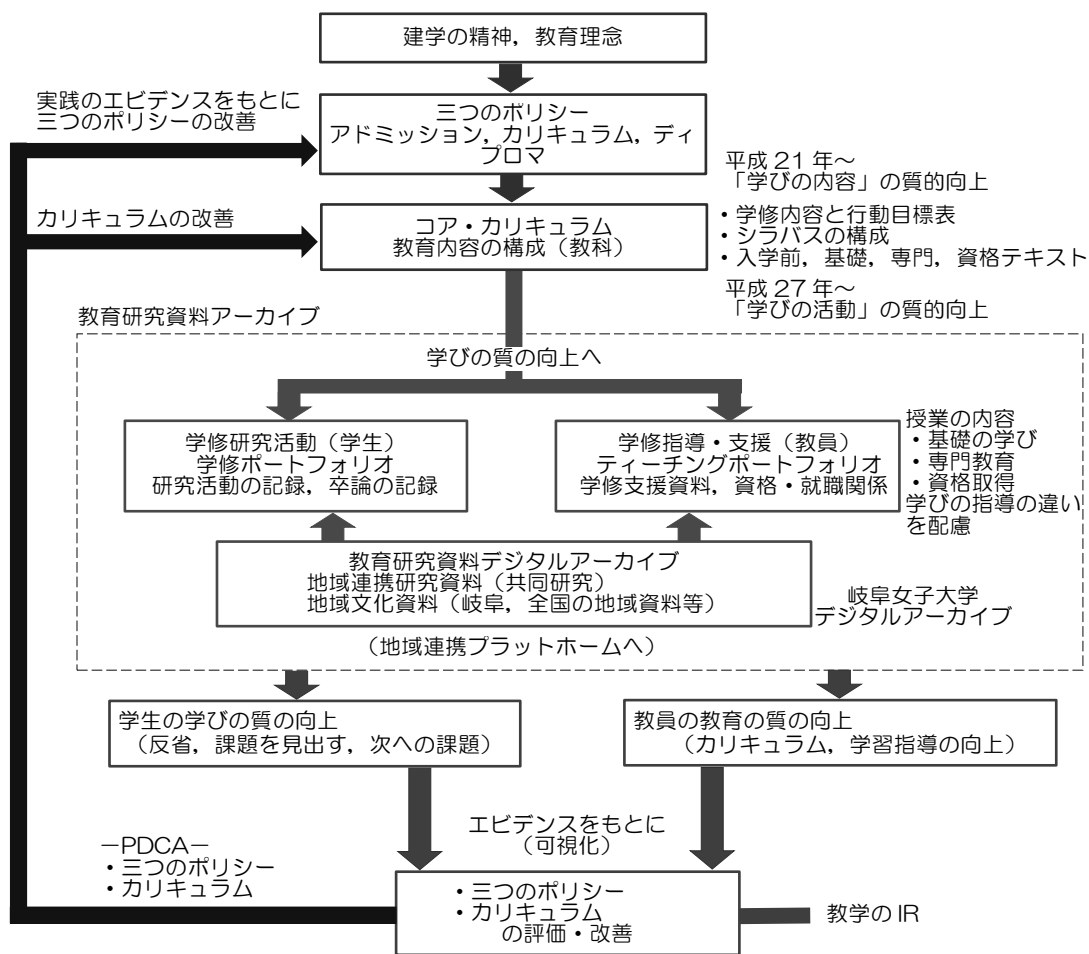


図1 全学的な教学のマネジメント
 (「学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて」2019より)

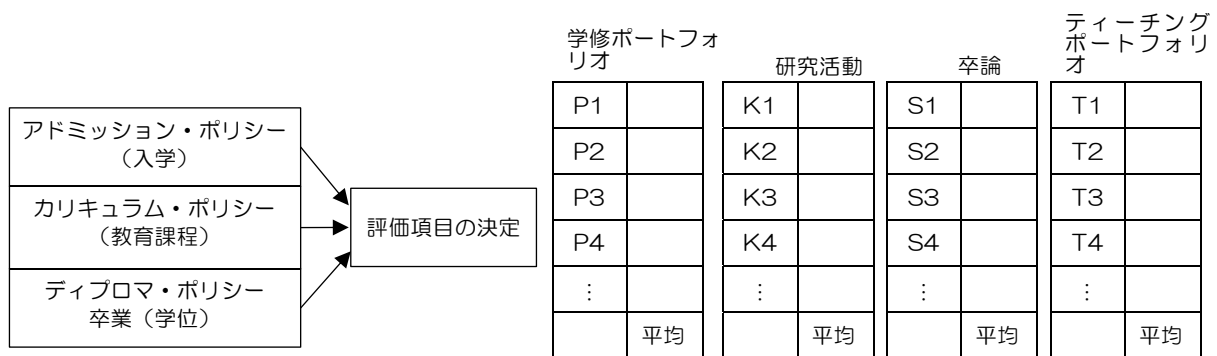
三つのポリシーとコア・カリキュラムの改善を図っている。全学的な教学マネジメントに教育研究資料アーカイブを位置づけ、図1に示すように教育研究資料アーカイブにより学びの質の向上を図っている。

建学の精神や教育理念に基づいて指導計画を作成し、学生の学びの状態、教員の指導の状況、これらを支える教育研究資料を教育研究資料アーカイブに記録し保管している。教育研究資料アーカイブに保管された資料などから学生が自己評価し、教員が一人一人の学生を評価する。さらに、評価を含むこれらの資料から、三つのポリシーを評価し、指導計画等を改善する。三つのポリシーは実践のエビデンスを基に改善し、コア・カリキュラム

はカリキュラムの評価を基に改善する。実践のエビデンスやカリキュラムの評価は、学生の学びの質の向上と教員の教育の質の向上の観点から評価している。

教育活動の評価、改善には、学修ポートフォリオ、および、ティーチングポートフォリオが重要な役割を果たしている。ティーチングポートフォリオと学修ポートフォリオは密接な関係を持たせている。学修ポートフォリオでは、研究活動の記録、卒論の記録などの学生の学修研究活動を扱い、ティーチングポートフォリオでは学修支援資料、資格・就職関係などの学修指導・支援を扱う。

学生の学びの状態と教員の指導の状況の評価は、「1)学修ポートフォリオ」「2)学生の研



評価基準, 1,2,3,4,5

図2 三つのポリシー改善のためのエビデンス
(「学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて」2019より)

究活動」「3)卒業論文」「4)ティーチングポートフォリオ」で行う。「1)学修ポートフォリオ」「2)学生の研究活動」「3)卒業論文」「4)ティーチングポートフォリオ」は、図2に示すとおり、三つのポリシーに基づいて評価の項目

を策定している。

「1)学修ポートフォリオ」は、1~4年生を対象に基礎科目と専門科目のコア・カリキュラム主要科目について、「学びの評価項目」を設定して評価する。今後、コア・カリキュラム主要教科以外にも評価の対象を広げる。学びの評価項目は、基礎科目と専門科目共通とし、表1に示すとおり、P1~9の授業に関する項目(授業), P10~11の自己の伸びの自覚に関する項目(認知), P12~21の本学の教育理念に直結する能力に関する項目(能力)である。これらの科目共通の評価項目に加えて、科目によって必要となる項目を追加して評価する。追加する項目例として、観察実験を行う理科基礎(3~5コマ・模擬授業)の例を表2に示す。

「2)学生の研究活動」は、基礎教育の後半以降となる2~4年生を対象に、基礎科目や専門科目について、予習や復習、課外学習などを中心に、学びを深めたり、発展的学修を行ったりするために必要な「研究活動の評価項目」を設定して評価する。表3に示すとおり、K1~10は研究の進め方に相当する項目となっており、研究のまとめをレポートなどにまとめるまでを評価の対象としている。研究活動については、基礎演習などの科目で具体的な研究の進め方について学ぶことになる。

表1 学びの評価項目

授 業	P1.授業の見通しが持てた
	P2.予習ができた
	P3.授業(本時)の課題が分かった
	P4.主体的な学修ができた
	P5.対話的な学修ができた
	P6.深い学びができた
	P7.意欲的に取り組めた
	P8.授業が理解できた
	P9.復習ができた
認 知	P10.自分の力が分かった
	P11.自分の伸びが分かった
能 力	P12.創造力がついた
	P13.計画力がついた
	P14.論理的思考力がついた
	P15.分析力がついた
	P16.チームワークの力がついた
	P17.コミュニケーション力がついた
	P18.リーダーシップの力がついた
	P19.行動力がついた
	P20.プレゼンテーション力がついた
	P21.社会的責任が持てるようになった

表2 追加する項目(理科基礎の場合)

P51.見通しを持った観察実験の指導ができた
P52.安全な観察実験の指導ができた
P53.正しい観察実験の指導ができた
P54.正しい結果処理の指導ができた
P55.科学的な見方や考え方の指導ができた

表3 研究の評価項目

K1.興味のある研究分野を見つける
K2.興味のある研究分野について調べる
K3.論文を読み、項目別にまとめ、整理、保存する
K4.研究テーマを決める
K5.研究方法について調べる
K6.実験、調査等の研究方法の原理を理解する
K7.研究の道筋を考える
K8.実験、調査等の結果を予測する
K9.実験、調査等の記録をとる
K10.研究結果をレポートなどにまとめる

「3)卒業論文」は、ゼミが決まって卒業研究に取り掛かる3～4年生を対象に、卒業研究の取り組みを評価する「学位条件としての評価項目」を設定して評価する。「3)卒業論文」は「2)学生の研究活動」が発展したものである。表4に示すとおり研究の進め方は「2)学生の研究活動」とほぼ同じ評価項目であり、「S10.研究結果を論文にまとめる」は応用研究等の科目で学ぶ論文の書き方などの内容を含む評価項目である。

なお、「学位条件としての評価項目」は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリ

表4 学位条件としての評価項目

S1.興味のある研究分野を見つける
S2.興味のある研究分野について調べる
S3.論文を読み、項目別にまとめ、整理、保存する
S4.研究テーマを決める
S5.研究方法について調べる
S6.実験、調査等の研究方法の原理を理解する
S7.研究の道筋を考える
S8.実験、調査等の結果を予測する
S9.実験、調査等の記録をとる
S10.研究結果を論文にまとめる
S11.創造力がついた
S12.計画力がついた
S13.論理的思考力がついた
S14.分析力がついた
S15.チームワークの力がついた
S16.コミュニケーション力がついた
S17.リーダーシップの力がついた
S18.行動力がついた
S19.プレゼンテーション力がついた
S20.社会的責任が持てるようになった

シー)との関係から、文化創造学部では「建学の精神に基づき、広く豊かな教養と初等教育・文化事業に関する高い専門知識や技能を身につけ、主体性を持って地域社会で活動できる人材を育成する」として、次の3つを教育目標としている。

-
- 1 「女子ならではの」の深い教養を育み、生涯にわたって学び続ける力、主体性を持って地域社会で活動できる力を身につける。
 - 2 初等教育・文化に関する高い専門的知識と技能を修得し、社会的に認められる資格を取得できる力を身につける。
 - 3 相手の立場を思いやる心、たゆまず努力する姿勢、多様な価値観を認める寛容な精神など、地域社会で幅広く活躍できる人間力を身につける。
-

これらは、本学の教育理念に直結する能力に関する項目である。そのため、「学びの評価項目」のP12～21が「学位条件としての評価項目」のS11～20に該当する。

「4)ティーチングポートフォリオ」は、栗田(2009)の述べているとおり教員「自らの教育活動について振り返って記述された本文とこれらの記述を裏づけた資料(エビデンス)から構成される教育業績についての厳選された記録¹⁾」であり、教育改善のための評価である。そのため、評価の項目は授業者である教員の「教育内容と指導法の評価項目」である。表5に示すとおり、T1～5の準備に関する項目、T6～11の授業に関する項目、T12～14の評価に関する項目、T15～19の改善に関する項目、T20～21の家庭学修に関する項目である。

T6～11は授業に関する項目であり、アクティブ・ラーニングとの関連が深い。1コマ、または、連続する複数コマを対象とするため、教育目標の行動的的局面を記述することができる。L.W.Anderson(2001)らの改訂版タキノミーは、石井(2003)が「方略についての知識を軸にメタ認知を実体的に捉えるカテゴリー構成になっている²⁾」と述べているとおり、

教育目標の行動的的局面を分類し記述することができる。そこで、改訂版タキノミーをティーチングポートフォリオの一部として利用する。理科基礎(3～5 コマ・模擬授業)の改訂版タキノミーを表 6 に示す。

知識次元・事実的では、記憶は「学習指導

要領に示された単元の内容を知っている」、理解は「学習指導要領に示された単元の内容を理解できる」である。

知識次元・概念的では、応用・分析は「単元の構造を分析し、本時のめあてを設定できる」、創造は「子どもをイメージして学習指導

表 5 教育内容と指導法の評価項目

準備	T1.シラバス作成に役立った
	T2.ティーチングポートフォリオメタデータ作成に役立った
	T3.授業の教材作成に役立った
	T4.学修成果の設定に役立った
	T5.授業設計に役立った
授業	T6.授業(本時)の課題設定に役立った
	T7.主体的な学修に役立った
	T8.対話的な学修に役立った
	T9.深い学びに役立った
	T10.学生の意欲を高めるのに役立った
	T11.学生の理解を深めるのに役立った
評価	T12.診断的アセスメント*1 に役立った
	T13.形成的アセスメント*2 に役立った
	T14.総括的アセスメント*3 に役立った
改善	T15.シラバス改善に役立った
	T16.ティーチングポートフォリオメタデータ改善に役立った
	T17.授業方法の改善に役立った
	T18.授業の教材改善に役立った
	T19.授業設計の改善に役立った
家庭学修	T20.学生の予習に役立った
	T21.学生の復習に役立った

*1 教員が授業前に学生の能力や既有知識を把握して、授業内容・計画を調整するために行う評価
 *2 学修の形成発展段階で学習者の学習状況を把握するために行われる評価
 *3 教員が学生の最終成績を判定するため学修を総括する評価

表 6 理科基礎(3～5 コマ・模擬授業)の改訂版タキノミー

		認知過程次元					
		記憶	理解	応用	分析	評価	創造
知識次元	事実的	学習指導要領に示された単元の内容を知っている	学習指導要領に示された単元の内容を理解できる				
	概念的			単元の構造を分析し、本時のめあてを設定できる			子どもをイメージして学習指導要領に示された内容を学習指導案に記述できる
	手続き的			学習指導案に沿って模擬授業を実施する	評価の観点に沿って模擬授業を分析・評価する		
	メタ認知的				模擬授業を実施して子ども役の学生の反応から、うまくいかないところの原因を自分で考える		明らかになった原因を解決する方法を考へて、学習指導案を改善する

表7 学年と評価の方法

学生の学びの状態と教員の指導の状況と評価				学年				評価者
(A)	(B)	(C)	(D)	1年	2年	3年	4年	
1)学修ポートフォリオ (当面、コア・カリキュラム主要科目)	学びの評価項目 P1,P2,P3…	評価項目による評価と教師の評価	個の評価(入学から基礎)	基礎教育		専門教育		自己評価 教師による 個の評価
2)学生の研究活動 (主体的学修)	研究の評価項目 K1,K2,K3…	評価項目による評価と教師の評価	学びと研究の追求態度、知識、技能			研究		自己評価 教師による 個の評価
3)卒業論文 (個人またはグループ)	学位条件としての評価項目 S1,S2,S3…	評価項目による評価と教師の評価	学位に相当する力 (個の伸び)				卒論	自己評価 教師による 個の評価
4)ティーチングポートフォリオ (ビデオ記録分析)	教育内容と指導法の評価項目 T1,T2,T3…	教育方法と内容の達成状況の評価	カリキュラムの評価改善	基礎教育		専門教育		教師による 個の評価

(「学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて」2019より)

要領に示された内容を学習指導案に記述できる」である。

知識次元・手続き的では、応用は「学習指導案に沿って模擬授業を実施する」、分析・評価は、「評価の観点に沿って模擬授業を分析・評価する」である。

知識次元・メタ認知的では、分析・評価は「模擬授業を実施して子ども役の学生の反応から、うまくいかないところの原因を自分で考える」、創造は「明らかになった原因を解決する方法を考えて、学習指導案を改善する」である。

評価者は「1)学修ポートフォリオ」「2)学生の研究活動」「3)卒業論文」は、学生の自己評価、および、教師による個の評価である。「4)ティーチングポートフォリオ」では、教師による個の評価、および、授業の評価である。表7に学生の学びの状態と教員の指導の状況と評価、学年と評価の方法、評価者を示す。

5. 授業実践とポリシーの改善

「1)学修ポートフォリオ」「2)学生の研究活動」「3)卒業論文」「4)ティーチングポートフォリオ」の評価から学生の学修や教育活動の総合的な評価を行う。図9に示すとおり、学

生の学修、教育に関する総合的な評価に基づいて三つのポリシーの改善を行う。学生の学修、教育に関する総合的な評価による改善の方向は次のとおりである。

(1) ディプロマ・ポリシー

学生の学修、教育に関する総合的な評価から、ディプロマ・ポリシーの内容の実現に向けて教育活動が展開されていると考えられる。従って、現状のディプロマ・ポリシーの継続が望ましいと考えられる。本学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)は次のとおりである。

ディプロマ・ポリシー

岐阜女子大学は、建学の精神「人らしく、女らしく、あなたらしく、あなたならではの」の下、広く豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、地域社会で主体的に活動できる人材を育成する。そのため、大学が定める学力及び能力・人間力を身につけ、卒業要件を満たして所定の期間在籍した者に、卒業を認定し、学位を授与する。

(2) カリキュラム・ポリシー

学びの記録と質の保証のための学修ポートフォリオの活用⁴⁾の検討から、学修ポートフォリオの効果は確かめられつつあり、学修ポートフォリオを効果的に活用して学修意欲を

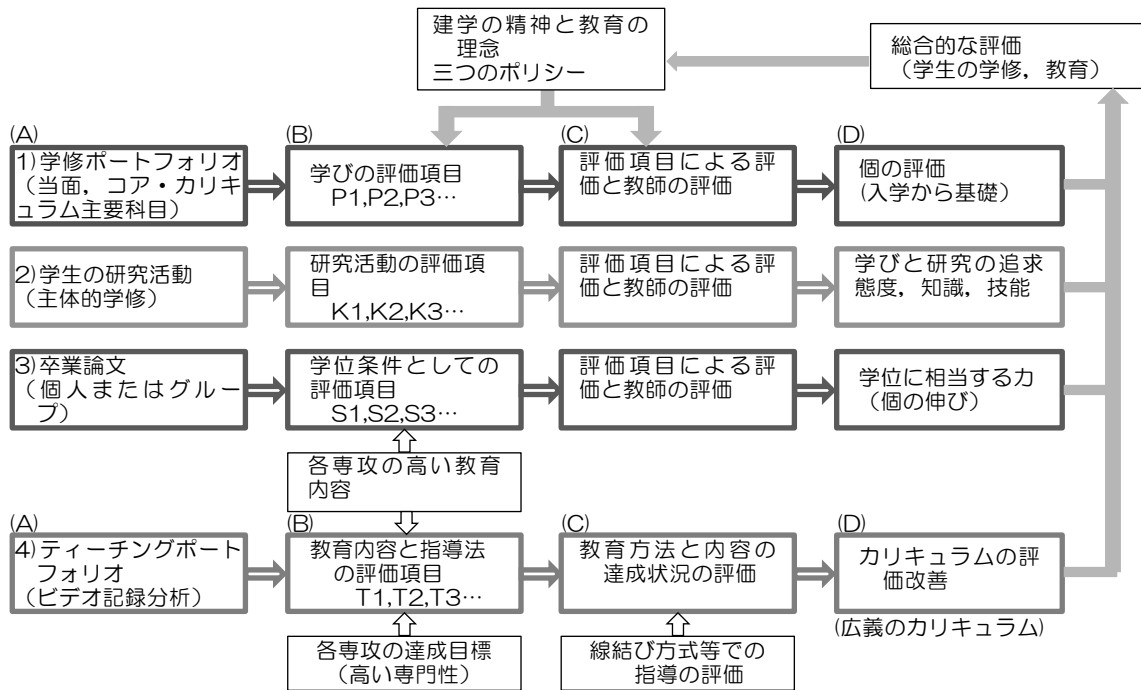


図9 学生の学びの状態と教員の指導の状況と評価
 (「学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて」2019より)

高めたり、学びを深めたりする教育を継続、発展させる必要があることが明らかになった。

ティーチングポートフォリオを活用した授業の検討⁵⁾から、ティーチングポートフォリオの活用が学修意欲を高めることが明らかになった。しかし、ティーチングポートフォリオメタデータを学修意欲に結び付けることや家庭学修に繋げることが課題であることが明らかになった。ティーチングポートフォリオに記載された個の評価のフィードバックの方法の検討が必要となっている。

資格取得・就職支援などの学修支援資料の提供の検討⁶⁾から、学修支援資料の提供が目的を持って学習に臨み学修意欲を高めることが明らかになった。

これらのことから、本学のカリキュラム・ポリシー「1 教育課程の編成」は妥当であるが、「2 教育内容・方法」の(2)と(3)の一部と、「3 学修成果の評価」の(2)の一部の検討が必要となっている。本学の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

は次のとおりで、検討が必要な部分は下線部である。

カリキュラム・ポリシー

岐阜女子大学は、豊かな教養と高い専門的知識・技術を育み、地域社会で主体的に活動できる人間力の育成をめざして、多様な授業形態を組合せた教育課程を体系的に編成し、それを実践・評価する。

1 教育課程の編成

(1) 教養教育では、大学での学びと将来に向けての学びに主体的に取り組む自律性を育てため、学修の基礎となる全学共通教育科目を配置する。

(2) 専門教育では、高い専門性を身につけるため、主要科目と関連する履修科目の到達目標を明確にして体系的に配置する。

(3) 学識の実践力を高めるため、実習・演習科目を効果的に配置する。

2 教育内容・方法

(1) 教育目標・教育課程に応じた効果的な教育を推進する。

(2) 基礎・専門教育課程では、カリキュラムマップを編成し、学生の主体的な受講と学修を推進する。

- (3) 学修の効果を高めるため、主体的、協働的、課題解決型の実践的学修を取入れる。
- (4) 本学教育の総仕上げとして、卒業研究を必修とする。
- 3 学修成果の評価
- (1) 2年終了時には、進学課程に必要な単位の修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得を評価する。
- (2) 学修状況を調査し、学修の状態と学修の方法を把握して指導と評価に活用する。
- (3) 卒業研究と関連学修について総合的な学びを評価し、卒業の適否を判断する。

(3) アドミッション・ポリシー

学修支援資料デジタルアーカイブ委員会は、学修ポートフォリオ(能力 P12～21)に示した学生がつけるべき10の能力を設定している。学修ポートフォリオに示した能力は、ディプロマ・ポリシーの「大学が定める学力及び能力・人間力」とも関連する能力である。アドミッション・ポリシーに記載された「①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性のある多様な人間力の研鑽」と関連づけられている。学生の学修、教育に関する総合的な評価からも変更の必要がないことが明らかになった。本学の入学者受入の方針(アドミッション・ポリシー)は次のとおりである。

岐阜女子大学は、建学の精神と教育の目標を理解し、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性のある多様な人間力の研鑽に意欲的な人を選抜する。

また、高い専門性を身につけ、地域社会での活躍をめざす人の入学を期待する。

3. おわりに

ポートフォリオなどを活用した授業実践を行い、2019年4～11月の実践と調査をもとに、次の3つの研究を行った。

①学びの記録と質の保証のための学修ポート

フォリオの活用の検討

- ②ティーチングポートフォリオを用いた授業の改善と教育の質の向上
- ③資格取得・就職支援などの学修支援資料の提供

これら研究結果を基に、三つのポリシーについて検討した。その結果、ポートフォリオなどを活用した授業実践により、具体的な目的を持って学習に取り組んだり、主体的、意欲的に学修に取り組んだりする学生の実態が明らかになった。このことから、ディプロマ・ポリシーとアドミッション・ポリシーの変更の必要がないことが明らかになりつつある。

しかし、カリキュラム・ポリシーの一部については検討の必要があることが明らかになった。文言の変更、もしくは、学修研究活動や学修指導・支援の方法の改善が必要とあると考えられ、後期の総合的な評価を基に、検討し、改善の方向を探っていく予定である。

参考文献・資料

- 1)栗田佳代子(2009)「ティーチング・ポートフォリオってなんだろう?」, 大学評価・学位授与機構
- 2)石井英真(2003)メタ認知を教育目標としてどう設定するか:「改訂版タキソノミー」の検討を中心に, 京都大学大学院教育学研究科紀要 49,p.207-219
- 3)松川禮子ほか(2019)岐阜女子大学 学生の学びの内容・活動の充実と質の保証を求めて 教育研究資料デジタルアーカイブの開発と利用
- 4)三宅茜巳ほか(2019)学びの記録と質の保証のための学修ポートフォリオの活用
- 5)横山隆光ほか(2019) ティーチングポートフォリオを用いた授業の改善と教育の質の向上
- 6)吉村希至ほか(2019)資格取得・就職支援などの学修支援資料の提供

文部科学省私立大学研究ブランディング事業
地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業
成果報告書

2019 Vol.V No.1

学修支援資料デジタルアーカイブの共有化および
成果の公開と評価に関する研究

編集 岐阜女子大学 学修支援資料デジタルアーカイブ委員会

発行日 2020年2月11日

発行者 岐阜女子大学

〒501-2592 岐阜市太郎丸 80

TEL 058-229-2211 FAX 058-229-2222

HP <http://www.gijodai.ac.jp/>

印刷所 有限会社 青山印刷